

快適環境を目指した塩釜市の都市機能の改善

東北学院大学工学部土木工学科 学生員 ○ 田中尚澄

東北学院大学工学部土木工学科 正会員 尾坂芳夫

1.はじめに

塩釜市は港を中心に発達してきたまちで、市域は本土地域と海を隔てた浦戸地域に分けられるが、本土側についてはその大部分の土地が市街化区域となっていることから都市化が進み、東北では最も密度が高い都市となっている。土地利用を地域別に見ると、市街化区域が全体の7割を越えていることもあって、都市的な土地利用が進み、宅地の割合が極めて高い。その反面、山林、原野、田畑の割合が低く、特に田畑等の経営耕地のほとんどは浦戸地域に分散している。近年の特徴的な土地利用の動きとしては、昭和40年代から昭和50年代を中心に、北部の丘陵地が住宅団地として造成されて市街化が拡大する一方、緑の比率が急激に減少したこと等が挙げられる。このように、市街化の拡大が海の埋立によるほかに望めない状況にまで市街化が進んでしまった塩釜市がこれから考えなければならない問題は、膨れ上がった市街化区域で発生する様々な問題・課題の解決に取り組むことであり、悪化しつつある都市機能の改善であると思われる。「快適環境を目指した都市機能の改善」とは、塩釜市の特性について調査し、それを把握することによって浮上してくる問題・課題を提起し、住環境、交通環境等様々な視点から住み良い「快適な」環境を目指すために必要なことについて考察する研究である。

2.塩釜市の概要についての調査

塩釜市の快適環境について考える前に、まず塩釜市のおかれた現状について把握しておく必要があると考え、次の事柄について調査を行った。

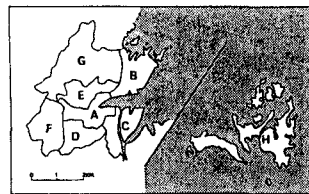
1.位置環境

2.自然・歴史環境・・・(1) 自然環境 (2) 歴史環境 (3) 災害による被害状況

3.社会環境・・・・・・(1) 人口の推移状況 (2) 市街地の土地利用状況 (3) 産業の現状
(4) 周辺市町との比較状況 (5) 通勤・通学状況

3.塩釜市の地域別の問題点・課題点の考察

2の調査結果をふまえ、塩釜市の都市機能の改善を考える時、それを害する様々な問題が浮上してくるが、その位置、被害の規模等の状況についてより深く分析する必要があることから、市域の位置、土地利用、用途機能、地形などの特性をふまえて8地域に区分し、その上でそれぞれの地域の概況について分析し、快適環境を害する問題・課題点についての考察を行った。



4.まとめ

本研究で塩釜市の都市機能上の問題・課題について考察したところ、多地域に渡って考えられる問題として、浸水による被害、スプロール化により突出する問題が挙げられた。その原因については、塩釜市の概要について事前に調査した結果をもとに考察したが、考えられることとして近年の急激な市街化・宅地化による影響が大きいということが分かった。結論として、塩釜市の活性化について考えるとき魅力ある市街地形成への第一歩として、限られた市街化区域の中での良好な住環境の整備、生活道路・幹線道路等の道路環境の向上のような都市機能上の問題の解消に努めるところから始めることが重要であると考ええる。